

# 活用できる助成金

	DX 推進助成金	中小企業デジタルツール導入促進支援事業	躍進的な事業推進のための設備投資支援事業
内容	中小企業が、デジタル技術を用いた企業変革や生産性向上を図るために必要な経費の一部を助成	中小企業が新たにデジタルツール（ソフトウェア・クラウドサービス）を導入する際に要する経費の一部を助成	下記の取組に必要となる機械設備を新たに導入するための経費の一部を助成 ① 更なる発展に向けた競争力の強化 ② DX（デジタルトランスフォーメーション）推進 ③ イノベーションの推進 ④ 後継者による新たな取組
限度額	3,000 万円 (下限額：30 万円)	100 万円 (下限額：5 万円)	1 億円 【小規模】3,000 万円 (下限額：100 万円)
助成率	①生産性向上コース ・賃上げ計画書提出企業 3/4 以内 ・小規模 2/3 以内 ・その他 1/2 以内 ② DX 戦略策定支援コース ・賃上げ計画書提出企業 3/4 以内 ・その他 2/3 以内	・小規模 2/3 以内 ・その他 1/2 以内	・1/2、2/3、3/4 以内
募集	年 2 回	年 2 回	年 2 回
その他申請条件	当事業の「アドバイザーによるトータル支援」を利用し、「アドバイザーによる提案書」に基づく申請であること	特になし	申請事業区分「② DX 推進」において、当事業の「アドバイザーによるトータル支援」を利用し、アドバイザーによる提案書に基づく申請をした場合には、審査において加点されます。
問い合わせ先	東京都中小企業振興公社 生産性向上支援課 03-3251-7919 (平日 9:00-17:00)	中小企業デジタルツール導入促進支援事業事務局 03-4446-9058 (平日 9:00-16:30)	東京都中小企業振興公社 設備支援課 03-3251-7884 (平日 9:00-17:00)

## [ 助成金活用にあたっての注意事項 ]

助成金を利用するには審査があります。採択をお約束するものではありません。  
必ず申請者自ら最新の募集要項の内容を確認するとともに、疑問点等については助成金の担当部署までお問合せください。

## お問い合わせ



総合支援部 生産性向上支援課 DX 推進支援事業担当  
〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 1-9  
東京都産業労働局秋葉原庁舎  
TEL: 03-3251-7917

デジタル化推進ポータル

DX 推進支援事業  
ポータルサイト  
URL <https://iot-robot.jp/>



# DXで成長への道を切り開く!

# DX推進支援事業

支援は  
すべて  
無料です



本事業は DX 推進による企業変革や生産性向上を目的とした、デジタル技術の活用を図る中小企業を支援する事業です。

\*デジタル技術とは ICT（ソフトウェア・クラウドサービス）・IoT・AI、ロボットなどを指します。

2024 年度版



# ICT・IoT・AI、ロボットなどデジタル技術の導入及び活用を図る都内中小企業を多様なメニューで支援します!

情報収集

アドバイザーによるトータル支援

助成金 (詳細は 8 ページに記載)

## ICT・IoT・AI相談

- Web 等による無料相談
- 週 5 回 (月～金)
- TEL : 03-3251-7881

## ロボット相談

- Web 等による無料相談
- 週 3 回 (月・水・金)
- TEL : 03-3251-7917

## 巡回員サポート

- 経営課題に応じたデジタル技術の導入や活用等に関する情報提供
- TEL : 03-3251-7917

## ポータルサイト

- 導入事例等の情報をポータルサイトにて発信

## 現地調査 ・診断 (最大 2 回)

- アドバイザーが事務所や工場等に現地訪問を実施
- 各社の経営課題に応じて、全社的・経営的視点から現状の課題を明確化した上で、支援方針を決定



## ①生産性向上コース (詳細は 4 ~ 5 ページに記載)

デジタル技術  
導入・活用支援  
(1 年度目 10 回・2 年度目 8 回)

## ②DX 戦略策定 支援コース (詳細は 6 ~ 7 ページに記載)

DX 戦略  
策定支援  
(10 回)

デジタル  
技術導入・  
活用支援  
(1 年度目 6 回・  
2 年度目 12 回)

必要に応じて組み合わせて利用可能

## DX 推進助成金

- 助成額 : 3,000 万円 (下限額 30 万円)
- 助成率 :
  - ①生産性向上コース
    - 賃上げ計画書提出企業 3/4 以内
    - 小規模 2/3 以内
    - その他 1/2 以内
  - ②DX 戦略策定支援コース
    - 賃上げ計画書提出企業 3/4 以内
    - その他 2/3 以内

## 中小企業デジタルツール 導入促進支援事業

100 万円 | 1/2 他

## 躍進的な事業推進のための 設備投資支援事業

1 億円 | 2/3 他

自社にあったコースを選択できます!

	①生産性向上コース	②DX 戦略策定支援コース
取組テーマ	生産性向上	企業変革
テーマの例	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 業務処理の効率化・省力化 (紙ベースの業務の電子化等)</li> <li>• 業務プロセスの再設計</li> <li>• 経営データ可視化によるスピード経営・的確な意思決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存の商品・サービスの高度化や提供価値向上</li> <li>• 顧客接点の抜本的改革</li> <li>• ビジネスモデルの抜本的改革</li> </ul>
範囲	特定業務～全社的	全社的
体制	企業内の特定の部署による取組	企業の全社・部署横断的な取組
目線	1 ~ 2 年後を見据えた眼前の経営課題解決	5 ~ 10 年後のビジョンに基づく長期的な変革
企業の作成書類	—	DX 戦略書
支援回数	最大 18 回 (1 年度目 10 回、2 年度目 8 回)	最大 28 回 (1 年度目 16 回・2 年度目 12 回)

## ✓ DX 推進支援事業ご利用の際のチェックポイント

本支援のお申込みに際して、以下の事項についてご確認ください。

- ✓ 本支援の利用可否に関しては会社の決定に従います
- ✓ 東京都内に主たる事業所をおく中小企業者等に該当します (当事業ポータルサイト内「募集内容」の「対象者」を参照)
- ✓ 専門家の派遣場所は 1 都 7 県に限定されることを了解しました (当事業ポータルサイト内「募集内容」の「派遣場所」を参照)
- ✓ みなし大企業ではありません
- ✓ 本支援の利用に際して、公社及びアドバイザーと秘密保持契約を取り交わすことがないことを了解しました  
※アドバイザーは会社との委嘱契約において、秘密保持の義務を負っています
- ✓ 本支援は当社の意思決定に対する助言を行うものであり、アドバイザーが業務の代行をするものではないこと、最終判断・行動等は当社の責任となることを了解しました
- ✓ 本支援を利用することについて、当社の代表者若しくは担当役員は了解しています
- ✓ 本支援を利用する場合、申込手続きが必要であること、決算書 3 期分及び履歴事項全部証明書等の情報提供が必要であることを了解しました
- ✓ 現地調査・診断にて「生産性向上コース」と「DX 戦略策定支援コース」を最終決定します  
※コース最終決定後の変更はできません

# ①生産性向上コースとは？

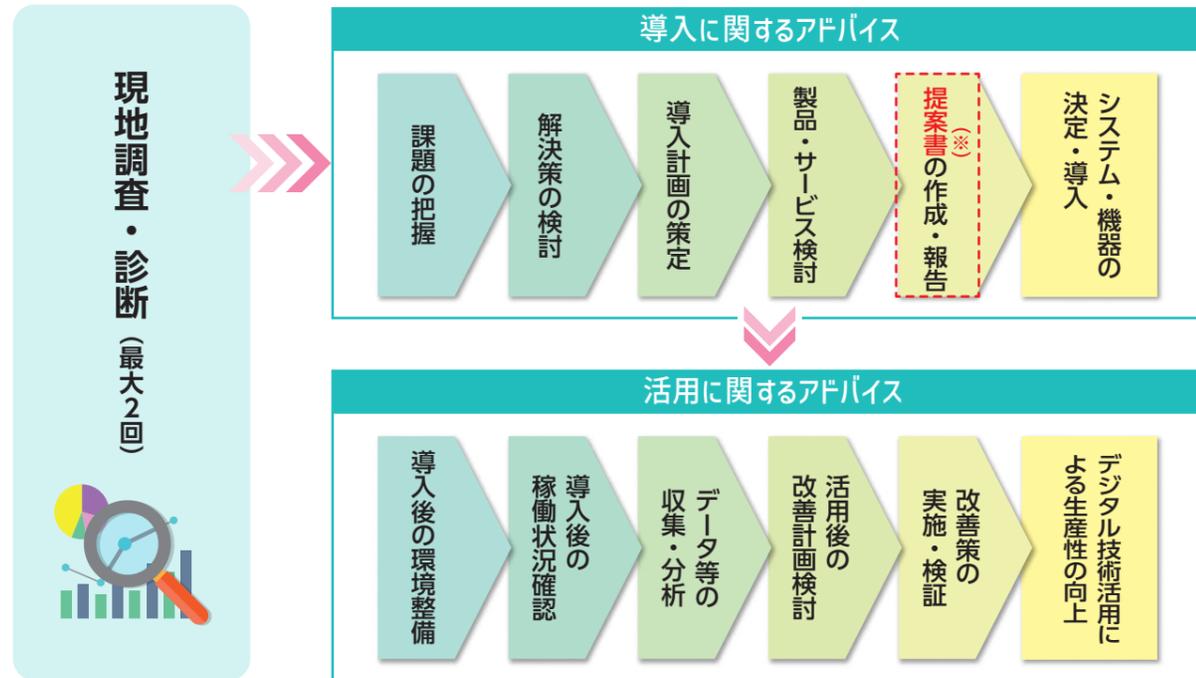
## 「生産性向上」とは

- 経営は、ヒト・モノ・カネを使って売上や顧客満足度の向上をめざし、達成し続けることが目標となります。
- 生産性とは、ヒト・モノ・カネといった経営資源をどれだけ使っているか＝「投入」に対する、お客さまの数や顧客満足度がどれくらいか＝「産出」の割合です。
- 生産性向上とは、「産出」につながらない「投入」を減らしたり（効率化への取組）、産出を増やすことのできる活動（付加価値向上への取組）を意味します。



## 生産性向上コースのフロー（支援例）

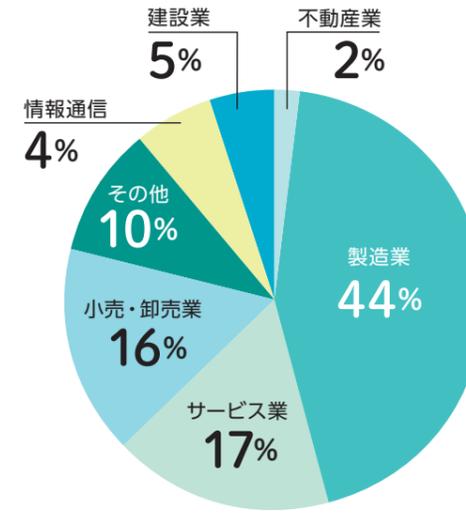
事業者ごとの課題に合わせた最適なアドバイザーを選任します。導入計画策定から導入後までサポートします。1年度目最大10回、2年度目最大8回まで（最大2年間）



## ※アドバイザーが作成する「提案書」とは？

- デジタル技術の導入段階、活用段階のいずれかでお渡しする、最大10ページの提案書となります。
- 担当となるアドバイザーが作成し、支援企業様にお渡しします。
- 提案書の内容は、以下です。
  - (1) 経営方針 (2) 課題・解決策 (3) 導入計画 (4) 検討した製品・サービス (5) 社内体制 等
- 提案書は、「DX推進助成金」の申請条件となっております。また、「躍進的な事業推進のための設備投資支援事業」の申請においては、区分「DX推進」で加点になります。
- 「DX推進助成金」または「躍進的な事業推進のための設備投資支援事業」の申請を予定している企業様は、**提案書の作成に要する時間（3か月程度）**に余裕をもって、アドバイザーに提案書の作成依頼を行ってください。

## 利用企業の業種割合



## 利用者の声

- 社内で着手できていなかった課題について、専門的な視点から整理、アドバイスいただけるのは非常に有難い。
- 優秀な専門家の伴走型支援は、企業内の問題が明確になり、適切なデジタル化が進む機会になった。
- 自社の課題と今後の方向性に関して、専門家からアドバイスを頂き、自社の将来目標を設定できた。

## 主な支援分野

全社的・経営的視点から、デジタル化に取組む分野を決定します。

生産・サービスの提供	営業・顧客管理	保守・メンテナンス	調達・在庫
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産・工程管理（製造指示）</li> <li>● 製造履歴（日報）</li> <li>● 顧客対応・受付</li> <li>● サービスのデジタル化・システム化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発・設計</li> <li>● 段取り・加工・組立</li> <li>● 検査・検品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 顧客管理</li> <li>● 案件管理</li> <li>● 見積作成</li> <li>● 受注 ● 発注</li> <li>● 販売管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アフターサポート</li> <li>● 遠隔監視・故障予知</li> <li>● 入在庫管理</li> <li>● 製品・商品管理</li> <li>● 設備機器管理</li> <li>● 物流管理</li> </ul>
<b>バックオフィス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 勤怠</li> <li>● 給与</li> <li>● 人事</li> <li>● 経理</li> <li>● 財務</li> <li>● ワークフロー</li> </ul>			

## 主な取り組みテーマ



## ② DX戦略策定支援コースとは？

### 公社が考える「中小企業 DX」

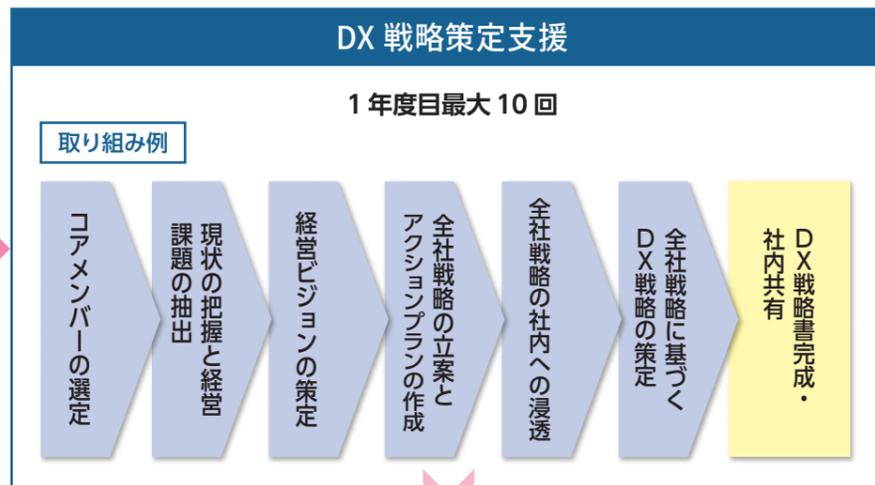
経営者の覚悟（コミットメント）のもと、  
全社的・長期的かつ自社以外からの視点を持ち、  
業務プロセス・組織・企業風土の変革を志向し、  
全社戦略に基づきデジタル技術を導入しデータを活用して、  
企業が自律的に成長していくこと。



### DX 戦略策定支援コースのフロー

事業者ごとの課題やDXの進展度合いに合わせた最適なアドバイザーを選任します。  
DX戦略の策定からシステム・ソフトウェアの導入・活用まで総合的にサポートします。  
1年度目最大16回、2年度目最大12回まで（最大2年間）  
1年度目の支援のうち10回程度でDX戦略の策定を支援します。

現地調査・診断  
(最大2回)



※提案書はアドバイザーが作成するもので、記載する内容等は4ページ記載の生産性向上コースにおける提案書と同一です。

### よくあるご質問

Q：DX戦略書とはどのようなものですか？

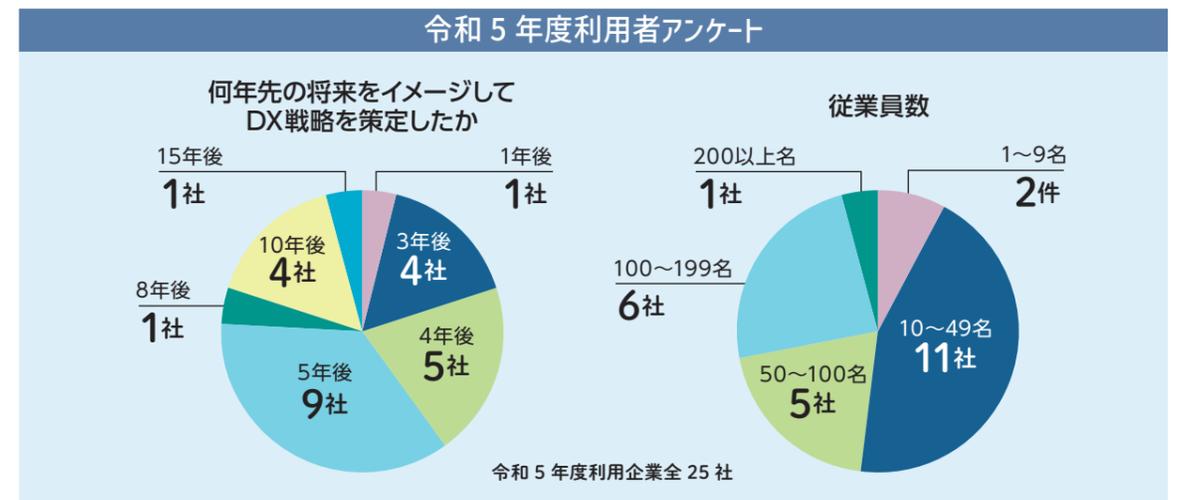
A：DX戦略書とは達成したい経営ビジョンと、効果的なデジタル技術を活用しながら取り組むシナリオ・プランをまとめたものです。アドバイザーの支援を受けつつ企業が作成します。

Q：DX戦略書はどのような目的で策定するのですか？

A：DX戦略書は、単に戦略を立てるだけでなく全社的に共有することで、会社全体で同じ方向を向きながら経営ビジョン実現を進めるために策定します。

Q：どのような企業が利用していますか？

A：規模や業種を問わず、長期的なDX戦略に基づきデジタル技術を活用したいと考えている企業から利用されています。



利用者の声  
(令和5年度利用企業)

- 社員に提示できる形で、戦略が整理できた。
- ご支援により社内のあるべき姿が徐々に形成されてきており、DX推進が自社にもたらす結果が具体的になってきており、従業員の意識変化ができてきている。
- アドバイザーに一人一人の意見を聴いて意見を引き出していただき、話の方向性を修正しながら導いていただいた結果、みんなが同じ方向に進めているという実感が持てている。
- DX推進について社内でのみでは変化に壁があると感じていた。アドバイザーに生産の現場に直接来ていただくことで、デジタルやAIを道具として活用してどのような結果を求めるかが明確になり、多方面での変革を進めることができた。